

ちょうふピースメッセンジャー

調布市遺族厚生会

交流会報告

令和7年9月7日開催

戦後80年を迎える節目の年に、戦争の悲惨さや平和の大切さを改めて考え、遺家族の思いや経験を次代に継承する場として、「遺族厚生会とピースメッセンジャーとの交流会」を開催しました。

当時、中学生だった方々も90代半ばとなり、高齢化が進んでいます。そのため、国や東京都においても、戦争の悲惨さや平和の尊さを後世へ伝えるための取組を積極的に実施しています。

こうした取組を踏まえて、本交流会では、ピースメッセンジャーの皆さんが体験したことや、学習したことをもとに、遺族厚生会の役員と意見交換を行い、戦争の悲惨さと平和の大切さを改めて考える機会となりました。



質問① 遺族の方にお聞きしたいこと

ピースメッセンジャーの質問

戦後80年を迎える中で、戦争体験の継承は非常に重要です。戦争の辛い記憶を持つ方が家族に伝えたかったことは何でしょうか？

遺族厚生会のお話し

軍服姿の方々が記念写真を撮っていたり、その周りの人は調布の駅で「万歳」と言いながら、見送っていました。私自身が幼かったので、彼らがどこに行くのかも分かりませんでした。

幼いながら、B29が飛んでくる際のサイレン、防空壕に逃げ込んだこと、暗闇で感じた恐怖は鮮明に覚えています。



ピースメッセンジャーの質問

戦後、食料不足や住居問題をどのように乗り越え、生活がどう変わったのか知りたいです。

遺族厚生会のお話し

戦時中は、家族単位に基づく配給制度で、米穀通帳がなければ米や魚などの食料は買えませんでした。運良く買えるとしても、私も小さいながらも数時間も並んだことがあり、周りの大人たちにかこまれながら怖い思いをしたことがあります。

食料不足であったため、民家の庭は野菜畑になるところが多く、食料を得るための物々交換が行われていました。お金があっても預金封鎖によって価値がなくなり、着物を物々交換に使う母の姿をよく覚えています。



質問② 戦後について気になること

ピースメッセンジャーの質問

戦後80年を迎えた現在、復興の成果や平和についてどのように感じていますか？

遺族厚生会のお話し

300万人以上の方が戦争で亡くなりましたが、日本はわずか20年程度で驚異的な復興を遂げたと思います。それは、1958年の東京タワーの完成や、1964年のオリンピック開催の様子を目の当たりする中で、生き残った人々は鎮魂の想いとともに復興に全力を注いできたと感じています。

現代の平和の中で、皆さんは食べたいものを食べ、スマートフォンを使うなどの自由があります。その一方で責任も伴っていると思いますので、我慢や努力、そして自分の責任について考えながら行動してほしいと思います。

質問③ 当時の体験談等について

ピースメッセンジャーの質問

戦時中、一番つらかったり怖かったりしたことは何でしたか？

遺族厚生会のお話し

私が3歳半のころ、母の実家である長野県に疎開する際に、乗客でいっぱいのもぎ製汽車に乗って移動しました。その道中、八王子駅近くで空襲警報が鳴ると、乗客は全員降りるように指示があり、母が「絶対に動いちゃいけない！」と叫んだ「声」は今でも覚えています。

当時は、疎開に慣れずに怖かったことや神経質なこともあり、食べ物があまり食べられず、おにぎりだけを食べていました。



質問③ 当時の体験談等について

ピースメッセンジャーの質問

調布に空襲があった際、地域住民はどのような避難行動を取っていたのでしょうか？

遺族厚生会のお話し

警戒警報が鳴り、電気を消さなければならず、真っ暗な中で焼夷弾が降る音に怯えており、隣家が流れ弾で燃えたこともあります。しかし、正直に言えば、幼かった私には、焼夷弾が煌めいて落ちる様子は美しいと感じたこともあります。



ピースメッセンジャーの質問

戦争によって、身の回りで一番壊れてほしくなかったモノやコトは何ですか？

遺族厚生会のお話し

狭くて暗い防空壕に入ることは嫌だったのと、自分の家が壊れることが一番不安でした。

調布から見て、西の空は夕焼けで明るかった一方で、空襲にさらされていた真っ赤な東の空は現実とは思えないほどでした。当時は、人もモノも全部無事であってほしいと願っており、その恐怖心は今でも記憶に残っています



交流会感想：遺族厚生会会長 田邊

この度、ピースメッセンジャーの皆さんとの交流の機会を得られたことを非常に嬉しく思います。このお話しの中で、当時の記憶が今も鮮明に残っていることに気づき、その記憶がどれほど貴重であるかを再確認しました。我々のような戦争を経験した世代も高齢化が進んでいますので、こうして語り継いでいくことが難しくなっています。

そこで、皆さんにお願いしたいことは一つだけ、「読書を冒険だと思って、様々な本を読んでほしい」ということです。

この交流会のように皆さんとお話する以外に、歴史のことを知ることができるのは読書です。ページをめくるごとに新たな世界が広がり、そこから学ぶことができます。生活の一部を読書に充てることで、さらに多くの知識を得て成長に繋げてほしいと心から願っています。

私が愛読する「星の王子様」という本には、『一番大切なことは目に見えない』というメッセージが込められています。なぜ、人々が憎しみ合うのかを考え、地球の連帯責任者であることを認識し、互いに協力していくことで、身近にいる大切な人を守る平和な世界を作れると信じています。

皆さんも、ピースメッセンジャーの活動を通じて、平和の大切さを学んでいると思います。是非、大切なご家族やお友達にその気持ちを伝えて、日々の生活を大事に過ごしてください。



交流会感想：ピースメッセンジャー

戦争や平和についての学びは、直接体験した人々からの話を聞くことで深まります。ピースメッセンジャーとしての活動を通じて、戦争の現実や平和の重要性を考える機会となりました。

この活動を通じて、原爆や戦争に関する知らなかったことに触れることができました。さらに、広島での平和関連施設を訪れた経験や、戦争中の教育に触れる機会を通じて、戦争と平和に対する理解が深まりました。

これらの体験により、戦争の歴史や平和について重要な知識を学ぶことができたと感じています。この知識や経験は、次世代に平和の大切さを伝え、より良い未来を築くための基盤となります。このような学びを多くの人と共有し、平和を守るための行動を続けていくことが重要と考えています。

